

		成 果 と 課 題					
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
国 語	<p>何を話し合うかを明確にし、ペアやグループで話し合う活動を通して、自分の考えを伝えることができる児童が増えた。</p> <p>文を作る活動から基本的な文型はほとんどの児童が身に付いている。しかし、「は」「へ」「を」などの助詞の理解や表記が十分でない児童がいる。</p> <p>読書や音読を通して、少しずつだが、語彙力が身に付いてきている。</p> <p>めあてを明確に提示することで、見通しをもち学習を進めることができるようになった。</p>	<p>対話や交流を重視し、同じ考えの児童や違う考えの児童と意図的に交流する機会を設けることで、多様な意見を受け入れ、考えを広げることができる児童が増えた。また、楽しく話し合いができる児童が増えた。</p> <p>カードなどを活用し、始め、中、終わりを意識したことにより、自分の考えを、順序を考えて書ける児童が増えた。</p> <p>他教科等の関連を図り、身近な教材を扱うことで、書くことに対する意欲を高めることができた。</p> <p>児童の語彙力が足りない現状があるので、言葉を大切に、豊かにしていく指導が必要である。</p>	<p>他教科等につながる作文指導を多く取り入れることにより、目的に応じて文を構成する力が付いてきた。</p> <p>対話的な学びを学習の中心に据え、課題解決に向かって考えたり伝え合ったりする場を工夫したり、意識的に設けたりすることにより自分の考えを主体的に発信しようとする児童が増えてきた。</p> <p>児童の学習用具の環境を整え、筆圧に気を付けさせ、いつでもどこでも文字を丁寧に書く習慣が身に付くように更に指導していきたい。</p>	<p>広く深く読めるような学習課題を作ることができるようになった。</p> <p>交流の中で、相手の意見を受けとめ、さらによい考えを生み出そうとする姿が見られた。</p> <p>文章を書くことに対して抵抗が少なくなってきたが、短く、簡潔に文章を書くことに課題のある児童が多い。</p>	<p>単元ごとに国語辞典を活用させ、文の構成や語の仕組み、働きについて指導ができた。進んで国語辞典を活用しようとする児童が増えた。しかし、一部理解不十分な児童もいるため、個別での指導が必要であった。</p> <p>定期的に、日記やミニ作文の取り組みを行うことができた。目的に合わせて、文章を書く力が高まってきている。さらに、文章の構成や推敲の仕方を丁寧に指導していくことが必要であった。</p> <p>文学作品では、教材文の作者に関する本を事前に提示することで、興味をもち、本を読む児童が増えた。その結果、読む力が少しずつ身に付いてきている。</p> <p>語句や漢字の学習の時間の確保が難しく、定着している児童は4分の3程度である。語彙力や漢字を書く力を伸ばし、文章表現で活用できるようにする必要がある。</p>	<p>語句や漢字の意味や使い方を国語辞典などで調べたり、熟語や文作りをしたりするを通して、使える語彙を増やしていくことができた。新出漢字の定着を図るために定期的に漢字小テストを行い、読み書きができるようになった。</p> <p>読解の学習では、要旨を書きまとめたり、読み深めたことについて自分の意見を書いて発表したりするなど、さまざまな活動を取り入れた。伝え合う活動を充実させることで意欲を高めることができた。</p>	
社 会			<p>学校の周りの様子や文京区の歴史に興味をもち、前向きに取り組む児童が多かった。</p> <p>近隣の施設に見学に行き、働いている人にインタビューするなど体験活動を通して、地域に対する関心を深めた。</p> <p>友達との交流を通して、自分の考えを深める児童が増えてきた。</p> <p>資料を効果的に活用することに課題がある児童が多かった。</p>	<p>課題を解決する上で、効果的な資料を提示することで、児童は思考を巡らせて学習問題について深く考えることができた。また、資料を読み取り、事実や根拠を示しながら、ノートに考えをまとめられる児童が多くなった。しかし、そのような資料を探し、用意することが難しいこともあった。</p> <p>授業内で地図帳を活用したことで、児童は、地図帳の引き方を身に付け、地図が好きな児童が増えた。</p>	<p>毎時間ごとや単元を通して、振り返りの時間を確保することによって、児童が自らの学びの変容を認識し、知識を広げ深めることができた。</p> <p>学期末ごとにまとめた新聞を作成することで、資料を選択し、資料を活用する力が身につけてきた。</p>	<p>各時代を象徴するような歴史上の人物や出来事に焦点をあてて授業を展開したり、提示する資料を精選し、何を調べるのかを明確にしたりすることで我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めさせることができた。</p> <p>歴史学習で出た地名等を地図帳で調べる活動が、不十分だったため地図を読む力に課題が残った。</p>	
算 数	<p>少人数指導で、個に応じた適切な支援をしてきたが、全員に基礎基本を定着することはできなかった。より綿密な指導計画が必要である。</p> <p>半具体物を使った活動を加法や減法で取り入れ、どのように考えて答えを導き出したのかを伝え合うことで、確実に理解できる児童が増えてきた。しかし、定着には、日常的に反復練習が必要である。</p> <p>モデルを示すことで問題文を図に表せるようになってきたが、問題文の意味を理解するには読解力が必要である。</p>	<p>少人数指導を行い、個に応じた適切な支援をしたことで基礎基本の定着を図ることができた。</p> <p>具体物や半具体物の教具を用いて体験的に理解を深めることによって、児童の考える力や技能が身に付いた。</p> <p>基礎基本の問題を精選し、繰り返し練習することで理解が深まった。</p> <p>また、問題解決場面では、自分の考えを分かりやすくまとめ、説明することが身に付いてきた。技能、表現力においては、個人差が大きいため、個別指導を組み合わせ、引き続き系統的に指導していく必要がある。</p>	<p>習熟度別学習において、各コースのねらいを明確にし、児童の段階に応じた学習を展開することで、学習習慣の確立を図ると共に、個々の基礎力の向上を図ることができた。児童が自分に合ったコースを選ぶことができるよう工夫していく必要がある。</p> <p>また、問題解決場面において、自分の考えを整理し、ペアやグループ、全体で共有化を図ることで、少しずつ表現力が身に付いてきた。技能、表現力においては、個人差が大きく、引き続き系統的に指導していく必要がある。</p>	<p>習熟度別学習において各コースのねらいを明確にし、児童の段階に応じた学習を展開することで、基礎力の向上を図ることができた。児童が自分に合ったコースを選ぶことができるよう、工夫していく必要がある。</p> <p>また、問題解決場面において、自分の考えを整理し、ペアやグループ、全体で共有化を図ることで、少しずつ表現力が身に付いてきた。技能、表現力においては、個人差が大きく、引き続き系統的に指導していく必要がある。</p>	<p>習熟度に応じた授業を行い、児童が自分に合ったコースを選ぶことで、計算の基礎基本、表現力、技能が身に付いてきた。また、課題解決場面において、自分の考えを分かりやすく整理し、共有化を図ることで、全体の表現力が高まってきた。</p> <p>徹底したノート指導により、自分の考えや友達との考え、気付いたことなどを分かりやすくノートにまとめることができるようになってきた。技能、表現力においては、まだまだ個人差もあるため、引き続き系統的に指導していく必要がある。</p>	<p>習熟度に応じた授業を行い、児童が自分に合ったコースを選ぶことで、計算の基礎基本が身に付いてきた。また、ペアやグループでの交流場面の設定により、自分の考えを相手に分かりやすく説明する表現力が身に付いてきた。</p> <p>徹底したノート指導により、自分自身で分かりやすくノートにまとめることができるようになってきた。基礎基本、技能、表現力ともに個人差が大きく、引き続きの指導が必要である。</p>	
理 科			<p>植物を育てる活動を通して、自然に興味をもつ児童が増えた。</p> <p>手順を理解し、安全に気を付けて実験ができる児童が増えたが、まだ実験手順を理解できない児童もいるため、個に応じた指導が必要である。</p> <p>方位や日なたや日陰の温度などの学習において、日常生活や他教科との関連を図り、日常生活において使えるようにすることは、また課題がある。</p>	<p>実験器具の名前を知り、正しい使い方を理解し、安全に実験ができるようになった。学習の流れ（予想→実験→結果→考察）を明確にすることで思考が整理され、ノートに自分の言葉で結果や考察を表現できるようになった。</p> <p>理科で用いる難しい言葉を意識して授業中に使っていたが、定着させることが難しかったので指導を継続していく必要がある。</p>	<p>前学年の学習を意識して指導したことでつながりのある指導ができた。身近なことを理科的な視点で考えることができ、深く思考できることにつながった。</p> <p>結果から考察にかけては、良い記録の手本や評価規準を示したため少しずつ思考力の向上が見られた。</p> <p>実験・記録の評価規準を事前に示したが、知識・技能の向上はあまり見られない児童もいたため、引き続き、個別指導が必要である。</p>	<p>前学年の学習を意識して指導したことでつながりのある指導ができた。身近なことを理科的な視点で考えることができ、深く思考できることにつながった。</p> <p>結果から考察にかけては、良い記録の手本や評価規準を示したため少しずつ思考力の向上が見られた。</p> <p>実験・記録の評価規準を事前に示したが、知識・技能の向上はあまり見られない児童もいたため、引き続き、個別指導が必要である。</p>	<p>単元の始めに、実験や観察のねらいが明確になるような事象提示を行った。また、実験の方法を考える際、条件の制御に着目することを意識させる指導を行った結果、条件の制御へ対応する力や知識の活用場面で応用する力が育ってきた。</p> <p>実験や観察への意欲関心は高いが、問題解決学習の流れに沿ったまとめの仕方について、未だ課題が残った。</p>

生活	<p>身近な人や自然と関わる活動や体験を多く取り入れることで、自分なりの思いや願いをもたせ、自然や人・物に関わり、遊びや生活を工夫しようとする児童が増えてきた。</p> <p>児童の気付きを表現させるための手立てが必要である。</p>	<p>町体験や、地域施設との交流など、積極的に地域の人と関わる環境をつくり、地域をより深く理解し、地域に親しみをもつことができた。</p> <p>継続的に動植物に関わったことで、身近なことへの関心が高まり工夫して気付いたことを表現することができた。</p>				
音楽	<p>音楽を楽しめるように体を動かしたり色々なリズム遊びを取り入れたりとすることで楽しめる児童が増えてきたものの消極的な児童もややいるので、工夫が必要である</p> <p>技能の面では個人差があるので、児童同士で教え合う場面を取り入れ、学び合う機会を取り入れたことで、苦手意識をもつ児童が減ってきた。</p>	<p>身ぶりや手ぶりを付けながら歌うことで、楽しく歌の表現をすることができた。</p> <p>手拍子や打楽器などで、リズムをつなげたりつくったりする学習活動を通して、リズムの面白さを感じ取りながら表現を工夫する児童が増えた。</p> <p>鍵盤ハーモニカの技術の個人差が大きいため、個人練習をする時間を確保し、教え合いなどの支援を工夫する必要がある。</p>	<p>基礎基本を繰り返して指導するとともに、個人の練習時間を保証し、お互いに聴き合う活動などを通して、歌や器楽演奏などを楽しんで活動することができた。</p> <p>技能の面でやや個人差があるので、支援を要する児童の指導にも更に力を入れていきたい。</p>	<p>選曲を工夫したり、めあてを明確にしたりして、活動後に振り返りをするにより、もっとこう表現したいという思いや意図が表出し、学年全体としての表現の力が伸びてきたりした。今後も児童が意欲的に取り組める題材を工夫していきたい。</p>	<p>選曲を工夫したり、めあてを明確にしたりして、活動後に課題の達成度を振り返ることで、表現の工夫や技能など、それぞれの学習内容の定着を図ることができた。</p> <p>鼓笛・行事にも意欲的に取り組んだ。技能の面で個人差があるので、支援に力を入れていきたい。</p>	<p>学習のめあてを明確にし、活動に対して意識するポイントなどの的確な指示を心掛けることにより、指導内容の能力を高めることができた。特に行事を通して表現の能力が伸びていった。</p> <p>音楽づくりの時間の設定が不十分だったので、短時間でも充実した活動ができるように内容を工夫していくことが課題である。</p>
図画工作	<p>ICTを活用することで、具体的なイメージをもって取り組むことができていた。目的意識をもつて製作に取りかかることで、気持ちを込めた作品を作ることができた。しかし、失敗を恐れて、作品が小さくなってしまったり児童もいるため、完成形を事前に見られる等の準備が必要である。</p> <p>友達の作品のよいところを探す力に偏りがあるので、鑑賞の視点を絞るなどの工夫していく必要がある。</p>	<p>具体的な例を提示したことで、児童がイメージを膨らませて、創作活動に取り組むことができた。</p> <p>用具の特徴を十分に理解させ、慣れさせたり、試したりする時間を確保したことで、安全に気を付けて使うという意識を高め、それにより、より良い表現をすることができた。</p> <p>友達の良いところを自分の作品の中に取り入れることが難しい児童がいた。</p>	<p>題材の工夫、ICTの活用、児童一人一人への声かけなどにより多くの児童が意欲的に製作に取り組んだ。段階を追って安全指導をすることにより技能が向上した。また作品を作る際、児童の選択肢を多く設定したことで、表現の幅を広げることができた。基本的な技能や作業スピードにやや個人差があることが今後の課題である。</p>	<p>題材を工夫したり、ICTを活用したりすることにより、多くの児童が意欲的に創作に取り組み、その中で基本的な技能も身に付けることができた。活動の仕方や手順を工夫することで安全を確保することができた。支援を要する児童に対する指導・助言の仕方を工夫していく必要がある。</p>	<p>題材、テーマの工夫や適切な助言、手順を示すことにより、多くの児童が意欲的に創作活動に取り組み、個々の造形的表現力も高まった。また、題材ごとに振り返りを行うことにより、活動の見直しをもつて製作に取り組むことができた。今後も児童の実態に即した題材を工夫し、中間鑑賞を取り入れながら互いの良さを認め合い、アイディアを共有し意欲的に創作に取り組ませたい。</p>	<p>題材、テーマを工夫したり、表現方法に幅をもたせたりすることにより、児童一人一人の活動意欲が高まり、自分なりの表現方法を考えることができる児童が増えた。また、学習カードを使って振り返りや鑑賞を行うことにより、見直しをもって活動に取り組ませることができた。今後も、個々の個性や創造力をいかし、互いの良さを認め合いながら意欲的に創作に取り組ませていきたい。</p>
家庭					<p>手元見本や ICT を活用し、作業工程や学習内容を可視化することで、苦手意識のある児童も自信が持て、次のステップを踏むことができた。また教え合いや学び合いなどを通して協同しながら知識・理解や技能を高めたり、学習を広めたり、深めたりすることができた。引き続き対話的な学びを取り入れ、主体的な学びができるように取り組む。</p>	<p>自分の力量に合わせた製作活動や調理実習をすることで、一人一人が意欲的に作業に取り組むことができた。また指導計画を工夫することで、中学校への学習へとつなげたり、長期休業を利用し、家庭で実践できる機会や場面を増やしたりすることができた。今後は継続して家庭実践できるような指導の工夫が必要である。</p>
体育	<p>経験による差がなくなってきた。だが、やはり初めて取り組む運動に対しての不安感を強くもった児童がいるため、自信をもって取り組めるよう、スモールステップで進めていくなどの工夫が必要である。</p> <p>同時に二つ以上の運動ができない児童はいるものの、何度も繰り返し運動することで、コツをつかむことができてきている。</p>	<p>技能に個人差が見られたため、スモールステップでめあてを達成していくことで、技能が高まった。</p> <p>グループなどで、友達の良い動きを見合い、教え合う活動を通して、基礎となる技能を習得することができた。</p> <p>走ったり、道具を使って遊んだりする経験が十分でない児童もあり、普段から体をつかった遊びを進んでする機会を設定する必要がある。</p>	<p>学習カードやゲームの前の練習の仕方を工夫したことでめあてをもち、楽しんで課題に取り組む児童が増えた。また、チームで作戦を立てたり、アドバイスをし合ったりする活動を積極的に取り入れたことにより理解を深め、学び合いを充実させることができた。</p> <p>運動技能の向上を図るために、良い動きのポイントなどの提示の仕方や個に応じた指導を更に充実していく。</p>	<p>スモールステップで具体的なめあてを立てることができ児童が増えてきている反面、具体的なめあてを立てることに課題のある児童がいる。</p> <p>ボールを使ったゲームでは、ゲームを通して、ボールを投げる・取る、蹴る、とめるなどの基本的な技能を身に付けさせることができた。またゲームの方法も工夫し、運動時間を確保することで、ボールに触れる機会をたくさんつくることができた。</p>	<p>ワークシートの活用により、個に応じた指導をすることができた。また、ICTを活用して、自分の技能を振り返ることができ、学習の変容を自分自身で確認することができた。</p> <p>1時間ごとの評価について、思考の評価はワークシートにより毎時間間することができたが、技能は全体指導の観点から、全員を観ることができなかった。単元を通して個に応じた指導ができるようにしていく。</p>	<p>友達と教え励まし合いながら学習できるようチーム編成の仕方を工夫した結果、運動に進んで取り組む児童が増えた。</p> <p>自己の課題が解決できるように、資料、学習カード等を工夫することが十分にできず、見直しをもって児童が主体的に学習を進める点に課題が残った。また、体育の時間に取り組んだことを日常につなげ体力を高めていこうとする姿勢にも課題が残った。</p>